

さくら



令和8年6月22日(月)

「仲間」「絆」とは



先週、第67期生の修学旅行が無事におこなわれました。3日目の活動が終わるまで、奇跡的な好天に恵まれ、すべての行程を予定通りに終えられたことに、心から感謝しています。

出発当日、私は67期生の皆さんに「修学旅行に関わってくださるすべての人と事柄に感謝の心を持ち、その感謝を言葉で表そう」と伝えました。67期生はこの言葉をしっかりと実践してくれました。サポートして下さった多くの方々から、「礼儀正しい」「まとまりのある集団」など、多くの褒め言葉をいただきました。そんな67期生の姿を見ていて、強く心に感じたものがあります。それは、67期生の良い「仲間意識」と「絆」の深さです。

修学旅行は、学年、学級、班といった「集団」での行動が基本です。その中で、67期生が互いを支え合う場面を何度も目にしました。バス移動や活動中に体調を崩してしまった仲間へのさりげない気遣いやサポート、失敗をした仲間への励ましの声かけ、仲間だからこそ本音で注意しあう場面など。

そして何より素晴らしかったのが、レクリエーションで見せてくれた各クラスの劇です。クラスが一丸となり、ユーモアと笑顔に溢れた見事なステージを披露してくれました。

素晴らしいステージを見ながら、私はそれが完成するまでの「過程」に思いを馳せていました。きっと、すべてが順調だったわけではないはず。計画を立てる中で、意見が食い違ったり、配役や役割分担で悩んだり、ダンスや演技が苦手な仲間はどう教えるかなど、さまざまなことがあったでしょう。また、仲間を輝かせることも考えたことでしょう。

しかし67期生は、それぞれの思いの違いを乗り越え、互いに支え合い、励まし合って、あの最高の瞬間を創り上げました。楽しいこと、嬉しいことだけでなく、苦しいことや辛いことも共有できるからこそ、私たちは「仲間」になれるのです。そしてその先に、かけがえのない「絆」が生まれます。そこには仲間の足を引っ張るなどの行為はありません。

67期生が証明してくれたように、学校は勉強をするだけの場所ではありません。互いの違いを認め合い、支え合って「絆」を育む場所です。一人ではできないことも、この仲間とならできる。一人では創れない感動を、この仲間となら創ることができる。互いを思いやる最高の仲間意識をもって、それぞれの学年や学級での絆を深めていきましょう。68、69期生の皆さん、67期生に続いてください。

〈保護者の皆様へ〉

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

